令和６年能登半島地震　赤十字コーディネーターチーム派遣報告

国際医療救援部　光森健二

活動場所：石川県七尾市公立能登総合病院 DMAT 活動拠点
派遣期間　２０２４年１月２日～１月６日

要員３名（光森健二：医師、池田載子：看護師長、新井清久：主事、支部職員）

概要

今回赤十字コーディネーターチームとして１月２日より６日まで能登半島地震対応に派遣されました。

寸断された交通網・通信網による情報不足、断水などによる現地病院の機能低下、分散した避難所と人手不足の現地行政・保健所など迅速な救援がむつかしい状況でした。
保健医療調整本部のような行政による統括が確立するまえに DMAT の指揮下に入り遅れていた避難所対応を赤十字が中心となって行う体制を立ち上げ避難所アセスメントを開始しました。避難所アセスメントと同時に行政への連絡を進め、被害の大きいところに早く救護所などの拠点を確立することを県支部のコーディネーターに進言して後続に引きつぎ任務終了となりました。

詳細経過

派遣までの経過

２０２４年１月１日午後４時１０分に発生した能登半島地震に対して発災当日から大阪赤十字病院国際医療救援部で対応開始。４時５０分には登院して救護班派遣の準備を開始しました。

救護員にはインフォメールと出動の可否を確認するスタンバイメールを発信して救護班編成を始めました。並行して大阪府支部と情報交換を行いましたが、現地の情報が十分得られないため発災当日は救護班派遣はなしと判断して、２０時１０分にいったん待機解除のスタンドダウン発信となりました。

翌２日朝８時３４分支部から第３ブロックから救護班派遣して、その他のブロックからの派遣は今後の会議で決めると連絡があり、８時４７分救護員にインフォメール発信しました。

１１時１分に再度支部より連絡があり第４ブロックから１班出すことが決まったこと、および現地に近い滋賀県より出す可能性が高いと連絡がありました。
11 時７分スタンバイメール発信し救援部職員が順次登院のうえ救護班編成開始し資機材と車両の準備を始めております。
１１時５０分に長浜日赤救護班が出動と決定したことを支部に確認して当院からの救護班派遣はなくなったとして１２時２１分スタンドダウンを発信しております。
１３時２８分コーディネーターチームを第４ブロックから１班派遣すると支部から連絡あり、大阪より出すと決定しました。
１４時３０分　病院より光森、池田（看護師長）が出発しています。
１５時４５分　支部から新井主事が加わり食料や簡易トイレなど物資を積み込んで出発しました。
２１時４２分　途中食事、給油済ませ石川県支部に到着しました。

現地での活動

１月２日

支部にて石川県支部職員、先に現地入りしていた第３ブロックコーディネーターや長浜赤十字救護班から情報提供を受け、明日の朝から支部にて新たに到着する救護班のブリーフィングや救護班の情報の整理など行うことが決まりました。

１月３日

６時４５分に支部に到着して新たな情報提供を受けました。その後到着した救護班のブリーフィングを福井赤十字病院コーディネーターチームと行ったり、活動している救護班の情報整理を行ったりしています。しかし 10 時過ぎに七尾市の公立能登総合病院にある DMAT 活動拠点に移動して活動することを指示されたため１０時５１分に支部を出発して、途中給油など行い１３時３０分に活動拠点である公立能登総合病院に到着しました。

DMAT の指揮下に入り、避難所情報を担当していた富山日赤 DMAT 隊と合流しました。到着時点では DMAT の主な任務である被災地の断水・停電などで機能不全に陥った病院や

施設からの患者避難、重症者の移送に人手がなく（道路が渋滞で時間がかかるため）赤十字救護班も患者さんの移送に協力を求められるなど、救護所アセスメントや支援には全く手を付ける余裕がないような状況でした。

富山日赤 DMAT 隊の行っていた避難所のリストアップなどを手伝い避難所関連の仕事を引き継ぐこととなりました。

七尾市周辺では宿泊施設がなく病院内に設けられた休憩部屋で宿泊することになりました。病院も天井や壁面パネルが損壊しており、断水のためトイレも汲み置きの水で流す必要がある状態でした。（私たちが到着する直前までおむつに排泄してトイレ外に破棄することが必要な状況だったそうです。）

１月４日

７時半に DMAT の会議開始。まだ避難所支援活動には言及されませんでしたが、その後 DMAT 副本部長と面談し今後赤十字救護班が中心となって DMAT と協力しながら避難所アセスメントや支援を行っていくことを確認しました。その後武蔵野赤十字病院救護班の協力を得て避難所のリスト化を行い、電話がつながるところには電話による情報取集、Google map を用いたマッピングを行いました。同時に穴水町の情報がまったくなく、電話も不通であることからコーディネーターチームの２名（池田、新井）をアセスメントに送りました。このアセスメントの際に避難所の取材を希望していた本社広報と NHK が同行してアセスメントの様子が報道されています。

アセスメントでは穴水町役場を訪問して避難所の情報や孤立集落の情報を収集しました。孤立集落は 2 か所（北七海新道：1 世帯 1 名、麦ケ浦：20 名）あり町役場が把握している避難所は 55 か所 3862 名（1 月 4 日時点）でした。保健師 5 名が活動しているが、マンパワー不足のため、避難所アセスメントはほぼ実施できていないとのことでした。保健師在中している避難所においても、被災者の対応に追われ、詳細なアセスメントは実施できていないとのことであった。ブルーシートや食料の配布はありましたが、飲料水と燃料の不足、トイレへの不満が多く聞かれるとのことでした。

穴水町以外にも救護班にお願いして七尾市など活動拠点から近い避難所のアセスメント

を開始しています。この日のアセスメントで一部の指定避難所が、実際には断水などで避難所として使用されていないことが確認されました。

情報の抜けは多くあるものの避難所のリスト化とマッピングが終了し、明日からの七尾市や穴水町、能登町のアセスメントプランを武蔵野赤十字救護班にお願いして作成してもらいました。

この日も病院内に宿泊しています。

１月５日

７時半から DMAT の会議に参加して活動を開始しています。赤十字が避難所関連の対応を行うことが本部の全員に周知されました。私たちの管轄である能登医療圏に 51 か所ある 100 人以上収容している避難所を優先することとして、救護班３班と DMAT 隊 4 隊を避難所アセスメントに送り出しました。また飯山赤十字救護班には避難所で感染症の発生が起こっていると報告された能登へ泊りがけでアセスメントと感染対策を行うことおお願いして、活動拠点に集積していた衛生資材（手指消毒薬、マスク、手袋）を持参して向かってもらいました。

また避難所診療を目的として到着した国立病院機構救護班に DMAT と相談して穴水町へ向かってもらう調整を行いました。（結局同日到着できず翌日以降活動となっています。）

避難所への物資配布に関しても相談があり、仮設トイレ（ラップポン）を配布する ACT という団体に避難所情報を提供したり、段ボールベッド１０００個も避難者数に応じて各地区の配布数を決めたりしました。

本日までのアセスメントでも避難所のうち６％しかアセスメントできていないためこのままアセスメントを継続するのみでは支援が遅れると考えられました。すでに赤十字から支援に入った輪島、珠洲の次に被害の多い能登に救護所など診療拠点と常駐体制を確立してアセスメントもそこから並行して行うことを県支部コーディネーターに進言しました。

午前中には後任の安曇野赤十字コーディネーターチームが到着して引継ぎを行い、我々は 17 時の DMAT 会議後 19 時に撤収しました。

支部到着後に支部活動中のコーディネーターに活動の報告を行ったのちホテルへ移動しました。

1月6日

朝9時に金沢出発13時47分に病院到着し、デブリーフィングを受けて任務終了となりました。

所感

今回コーディネーターとしては初めての任務でした。通常災害時の医療的対応の枠組みとして立ち上がる保健医療調整本部がまだ立ち上がっておらず、地元行政なしで統括DMATがすべてを取り仕切っている状況でした。DMATが主たる任務である重症患者搬送、病院避難対応で忙殺されていたため避難所対応の必要性は認識しているものの手を付けられていない状況であったと思われます。他の組織と連携がとれるよう人脈はじめ普段からの準備が必要なことや、災害による交通や通信の障害がある状況での情報収集と支援のむつかしさを痛感しました。

それでも具体的な被災者の方の支援にいかほど貢献できたのかわかりませんが、任期中に何とか赤十字救護班を中心に避難所体制を行うこと状態を確立しアセスメントの態勢を確立して後続に引き継ぐことができました。

また発災から派遣までの後方支援についても部分的とはいえ関わることで今後の活動に役立つ経験が積むことができたのではないかと思います。

一日も早い能登の復興を祈りつつ、引き続き救護班の派遣など支援を継続していく所存です。